

<b>【科目名】</b> 金融機関論	<b>【単位数】</b> 2 単位	<b>【科目区分】</b> 専門科目 展開科目
<b>【担当者】</b> 國方 明 Kunikata, Akira	<b>【オフィス・アワー】</b> <b>時間:</b> 第 1 回の授業で連絡します。 <b>場所:</b> 525 号室	<b>【授業の方法】</b> 講義
<b>【科目の概要】</b> <p>本科目では、金融機関とその行動を、主にミクロ経済学の理論を使って理解します。但し、時間が限られているので、金融機関のうち銀行を重点的に取り上げます。本科目でいう「銀行」は、預金取扱金融機関全般を指します。つまり、本科目の「銀行」は、〇〇銀行という名称で営業する株式会社だけでなく、信用金庫や信用組合なども含みます。本科目は以下の3つのパーツに分かれます：</p> <p>まず、パート 1 では、金融機関の制度的・歴史的側面を紹介します。例えば、日本では金融機関が銀行業、証券業や保険業などの業態に分かれ、相互参入が厳しく規制されてきました。また銀行業に限定すると、株式会社形態と協同組織形態の 2 つに大きく分かれ、前者は更に細かく都市銀行、地方銀行、第二地方銀行と信託銀行などに分かります。また制度を理解するためには、その制度が形成される過程つまり歴史的背景を学ぶことが有益です。</p> <p>次に、パート 2 では、ミクロ経済学の理論を応用して、銀行の存在意義、銀行行動、複数銀行が構成するシステムを議論します。ミクロ経済学の発展に伴い、(a) 1970 年代まででは生産者理論の応用が、(b) 1980 年代以降では「情報の経済学」や「不完備契約の理論」の応用が、それぞれ主流となってきました。また(b)は、個別銀行に対する公的介入や銀行システムに対する公的介入の議論につながっています。</p> <p>最後に、パート 3 で、銀行のリスク管理を教えます。</p> <p>なお、本科目は確かにミクロ経済学と深く関わります。しかし、本科目はマクロ経済学とも無関係ではありません。例えば、世界金融危機以降、銀行システムの安定性がマクロ経済学における一大論点になっています。また本科目で取り上げる銀行行動の理論や貸出の理論は、金融政策の波及経路を考える際の理論的基礎になります。</p>		
<b>【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか」</b>		
<p>本科目の内容は、金融経済学の金融機関に関する内容を、より高度にしたものになっています。また、金融経済学やファイナンス理論で教えた証券投資の理論を、金融機関に応用します。</p>		
<b>【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか】</b>		
<p>金融機関の役割やその行動を、これまで学んできた経済学の知識を使って理解できるようになると期待します。</p>		
<b>【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】</b>		
<p>最終目標：  ミクロ経済学の理論を使って、金融機関の役割やその行動を理解できるようになること。研究者向けの文献(例えば山沖義和・茶野 努 編著、『日本版ビッグバン以後の金融機関経営』、勁草書房、2019 年や植杉威一郎、「銀行-企業間関係と中小企業の資金調達 ——近年の研究動向——」、『経済研究』(一橋大学経済研究所)、Vol. 70, No. 2, pp. 146-167, 2019 年 4 月)を適切に理解できるようになれば、この目標を達成できたとと言えるでしょう。</p> <p>中間目標：  ● 基礎的な専門用語の意味を、正しく理解できるようになること。  ● ミクロ経済学の理論を金融機関へ応用するために、どのような工夫が必要なのかを理解すること。</p>		
<b>【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】</b>		
<p>2021 年度の金融機関論では、非常に高い評価をいただきました。2022 年度も引き続き高評価をいただけるように努めます。</p>		
<b>【教科書】</b>		
<p>本科目では教科書を使用せず、ハンドアウト(俗に言うプリント)を使って講義を進めます。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。</p>		
<b>【指定図書】</b>		
<p>該当無し。</p>		
<b>【参考書】</b>		
<p>内田浩史、『金融』、有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)</p>		
<b>【前提科目】</b>		
<p>ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、ゲーム論、金融経済学Ⅰ、金融経済学Ⅱおよびファイナンス理論</p>		

<p>上記6科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。</p>	
<p><b>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</b>  次の(ア)および(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。  (ア) 授業内小テスト1回。択一式です。  (イ) 期末試験。択一式と記述式の併用です。</p>	
<p><b>〔評価の基準及びスケール〕</b>  〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。</p> <p>A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。</p>	
<p><b>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。</li> <li>● 本科目では、金融経済学やファイナンス理論などに基づく、かなり高度な理論を取り上げます。このため、金融経済学やファイナンス理論の一方または両方を履修しなかった人、あるいはこれら2科目の一方または両方でD以下の評価を得た人は相当苦勞するでしょう。該当する人は、履修するか否かを十分考えてください。</li> <li>● 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。</li> <li>● 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。</li> </ul>	
<p><b>〔実務経歴〕</b>  公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、ミクロ経済学の理論を使って、銀行など金融機関の役割やその行動を理解する授業です。</p>	
<p style="text-align: center;"><b>授業スケジュール</b>  (履修者の理解度、新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、変更する可能性があります。もし、変更が生じたら、授業内で連絡します。)</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 ガイダンスと金融機関の役割  内 容: 金融経済学Iで教えた直接金融と間接金融を手掛かりにして、金融機関の役割を復習します。  参考書 第8章～第10章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 金融機関の分類  内 容: わが国金融機関の分類を学びます。  参考書 第8章～第10章</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 銀行業と銀行政策の歴史  内 容: わが国銀行業の歴史と、銀行に対する政策の歴史を学びます。  参考書 該当無し。</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 銀行の業務  内 容: 銀行の業務を学びます。  参考書 第8章</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート1 銀行の財務諸表と財務指標  内 容: 銀行の財務諸表と、財務指標を学びます。  参考書 第8章</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2 (a) 銀行行動の理論: 確実性下  内 容: ミクロ経済学および応用ミクロ経済学で学んだ生産者理論を応用して、確実性下における銀行行動の理論モデルを学びます。  参考書 該当無し。</p>

第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(a) 銀行行動の理論:不確実性下          内 容:金融経済学やファイナンス理論で学んだ分散投資の理論を応用して、不確実性下における銀行行動の理論モデルを学びます。          参考書 該当無し。</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択①          内 容:借り手企業の資金調達手段には、銀行借入以外に、社債発行や新株発行などがあります。しかし、特に中小企業では、銀行借入が主な資金調達手段になっています。そこで、「銀行借入には、他の資金調達手段にはない特殊性があるのではないか?」という疑問が浮かびます。第8回～第11回では、この疑問に取り組みます。          第8回では、阻害要因のうち逆選択という現象を学びます。          参考書 第4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択②          内 容:逆選択が存在するときの貸出市場を学びます。第9回授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。          参考書 第4章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 モラル・ハザード          内 容:阻害要因のうちモラル・ハザードという現象を学びます。          参考書 第4章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 銀行による阻害要因軽減          内 容:専門業者の銀行が貸出サービスを提供する結果、資源配分の非効率性が軽減される可能性を議論します。          参考書 第4章</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 銀行のガバナンスと銀行への公的介入          内 容:銀行も民間企業的一种です。そこで、銀行(資金の借り手)と、預金者など利害関係者との間で、逆選択の問題やモラル・ハザードの問題が生じるかもしれません。第12回では、銀行や銀行経営者を規律付けて、これら問題を軽減するための社会的工夫を学びます。          参考書 第14章</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスク管理          内 容:第7回～第12回の議論で、リスクが重要な役割を果たしました。リスクやリスク管理は、銀行の利害関係者にとって一大関心事です。そこで、銀行がどのようなリスクに直面しているかを学びます。          参考書 第8章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスク管理手法①          内 容:銀行のリスク管理手法を学びます。          参考書 第8章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):トピックス          内 容:最近の金融を理解するうえで重要なトピックスを、これまでの授業と関連づけて学びます。          指定図書 該当無し。</p>
試験	<p>期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。</p>